

# 第19次東京都観光事業審議会（第4回）

日 時：平成25年5月27日（月）午前10時～  
場 所：東京都庁第一本庁舎42階特別会議室A

午前10時開会

【十河観光部長】 皆様、おはようございます。お待たせをいたしました。定刻となりましたので、これより第19次東京都観光事業審議会を開会いたします。

本日は、お忙しい中ご出席をいただきまして、まことにありがとうございます。東京都産業労働局観光部長の十河でございます。議事に入りますまで、しばらくの間、私のほうで進行役を務めさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

それでは、初めに、お手元にお配りしております資料につきましてご案内をさせていただきます。

お手元には、議事次第と座席表をクリップどめしてお配りをしてございます。

また、本日の資料といたしまして5点ご用意しております。資料1は、「第19次東京都観光事業審議会委員名簿」です。資料2は、「東京都観光事業審議会条例」です。資料3が「東京都観光産業振興プラン～世界の観光ブランド都市・東京をめざして～」の本文でございます。また、資料4は、A3判の資料となります。「東京都観光産業振興プラン」の概要版でございます。資料5が「東京都観光産業振興プラン（中間のまとめ）」に対して寄せられた主な御意見でございます。ご確認をお願いいたします。

続きまして、お手元にお配りしてございます資料1「第19次東京都観光事業審議会委員名簿」に沿いまして、前回の審議会以降、新たに委員にご就任いただきました方々をご紹介させていただきます。

日本航空株式会社旅客販売統括本部部長、観光政策推進担当の宇山浩司委員でございます。

【宇山委員】 よろしく願いいたします。

【十河観光部長】 株式会社JTBグローバルマーケティング&トラベル代表取締役社長、座間久徳委員でございます。

【座間委員】 どうぞよろしく願います。

【十河観光部長】 社団法人日本ホテル協会東京支部長、志村康洋委員におかれましては、本日もご出席とご連絡を受けております。

【十河観光部長】 続きまして、東京都議会議員都議会民主党、いのつめまさみ委員でございます。

【いのつめ委員】 よろしく願いいたします。

【十河観光部長】 東京都議会議員都議会自由民主党、高橋信博委員でございます。

【高橋委員】 よろしく願いいたします。

【十河観光部長】 東京都議会議員都議会公明党、上野和彦委員でございます。

【上野委員】 上野でございます。よろしく願いいたします。

【十河観光部長】 なお、名簿にはございませんが、7名の方々がこの間ご退任されておりますので、口頭でご報告させていただきます。

株式会社ジェイティービー前常務取締役、野口英明前副会長。社団法人日本ホテル協会前会長、大橋寛治委員。日本航空株式会社旅客販売統括本部前部長、観光政策推進担当、紀野典彦委員。オーストラリア政府観光局前日本局長、堀和典委員。東京都議会議員都議会民主党、中村明彦委員。東京都議会議員都議会自由民主党、林田武委員。東京都議会議員都議会公明党、大松あきら委員。ご退任されたのは以上の7名の方々でございます。

次に、東京都の職員をご紹介させていただきます。

産業労働局長の中西充でございます。

【中西産業労働局長】 よろしくお願ひいたします。

【十河観光部長】 あわせまして、事務局側につきましても、前回の審議会以降、人事異動がございましたので、この場をおかりいたしまして改めてご紹介をさせていただきます。

今年4月1日付で着任いたしました観光部企画課長、船木克彦でございます。

【船木企画課長】 船木でございます。よろしくお願ひします。

【十河観光部長】 企画調整担当課長、猪口純子でございます。

【猪口企画調整担当課長】 猪口でございます。よろしくお願ひいたします。

【十河観光部長】 シティセールス担当課長、前田千歳でございます。

【前田シティセールス担当課長】 前田でございます。よろしくお願ひいたします。

【十河観光部長】 同じく4月1日付で企画調整担当課長から振興課長に異動いたしました山本哲也でございます。

【山本振興課長】 引き続きよろしくお願ひいたします。

【十河観光部長】 観光まちづくり担当課長は、昨年度に引き続き小平房代でございます。

【小平観光まちづくり担当課長】 小平でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

【十河観光部長】 最後に、改めまして、私は観光部長の十河慎一でございます。どうぞよろしくお願ひを申し上げます。

以上で紹介を終わらせていただきます。

議事に入る前に、産業労働局長の中西から一言ご挨拶を申し上げます。

【中西産業労働局長】 産業労働局長の中西でございます。本日は、大変お忙しい中、朝早くからお集まりいただきまして、まことにありがとうございます。

私ども、昨年夏の審議会で最終のご答申をいただいて以降、都政をめぐる状況の変化も見きわめつつ、さらなる東京の観光振興を進めるためのプランを策定するため、作業を進めてまいりました。

本年4月に新たなプランの中間のまとめを発表いたしまして、都民の皆様から広くご意見をいただきました。そして、先日、5月21日でございますが、今後5年間の取組指針となります新たな「東京都観光産業振興プラン」を策定し、公表いたしましたので、本日はその内容をご報告させていただきます。

委員の皆様方には、長期間にわたりまして幅広い視点からご検討いただきまして、大変なご尽力をいただきました。厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

平成22年10月に都知事から「東京の活力向上を図る観光振興の戦略的な取組」について諮問をさせていただいて以降、東京の観光をめぐる情勢はさまざまに変化をしております。とりわけ、東日本大震災の発生を機に観光を取り巻く状況は一変し、外国人旅行者が大幅に減少するなど、大きな影響があったところでございます。

平成23年の8月には、減少した旅行者の回復に向けて都が緊急的・短期的な視点に立って推進していくべき取組の指針を「東京の観光の回復を目指す特別提言」として審議会として取りまとめたいただきました。都といたしましては、審議会からご提示いただいたこの特別提言を踏まえまして、さまざまな施策を展開してきたところでございます。

1月に発表されましたJNTOの統計では、2012年の訪日外国人旅行者数は、対前年比34.6%増加の約837万人であり、着実に回復の兆しが見られております。今年の春は、花見を楽しむ外国人観光客の姿が都内各所にて見られました。今こそ観光産業振興を積極的に推進していくことが都に求められていると強く感じる次第でございます。

最終の答申におきましては、東京都は日本の観光振興の牽引役となり、東京の成長のみならず、我が国全体の成長を観光への取組により力強く支えていくべきだとの力強いお言葉をいただいております。

今後、新たな計画に基づきまして、さらに東京の魅力を磨き、世界の旅行者に選ばれる都市を目指して取組を進めてまいりたいと考えております。

本日はどうぞよろしくお願いたします。

**【十河観光部長】** それでは、この後の進行につきましては、安島会長よりよろしくお願いたします。

**【安島会長】** それでは、これより私が進行を務めさせていただきます。

観光産業振興プランにつきまして、都知事より諮問をいただいてから、昨年7月に答申をいたしました。それまでいろんなことがございましたが、昨年7月24日に答申をいたしました。それから約10カ月、観光部の皆さんの大変なご努力によって観光産業振興プランがようやくできました。これをいかに活用していくか、皆様方のご意見を頂戴していきたいと思っております。本日もどうぞよろしくお願いたします。

まず初めに、副会長の選出をいたします。

副会長につきましては、条例第5条第1項により、委員の互選により選出することになっております。

選出につきましては、野口前副会長の後任に当たられる座間委員にお願いしたいと思っております。いかがでございましょうか。

(「異議なし」の声)

**【安島会長】** ご異議なしとのことでございますので、座間委員に副会長をお願いしたいと思います。座間委員、それでは副会長席のほうにお移りいただければと思います。

それでは、早速ではございますが、座間委員より就任のご挨拶をいただきたいと思っております。よろしくお願いたします。

**【座間副会長】** ただいまご紹介にあずかりました座間でございます。副会長という過大な大任を仰せつかりまして、身の引き締まる思いでございます。安島会長を助けて、都の観光事業がますます躍進しますように頑張っていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

一言だけご挨拶させていただきますと、私、今、JTBグローバルマーケティング&トラベルというJTBの中の訪日のインバウンドをつかさどる会社で働いております。全世界の旅行会社を相手に会社ということで、今1つの組織を任されております。

私、実はJTBに入りまして34年になるんですが、入社したときからこのインバウンドの事業の部門におりまして、その後、欧州のパリ、それからロンドン、アムステルダムという外地で日本人の海外旅行を受け取る、それもインバウンドなんですけれども、そういう仕事をさせていただいておりました。

外から見た日本と、それから中から見た日本と、10年ぶりにこのインバウンドの職場に帰ってきたんですけども、30年前とは様変わりの様相を呈しております。折からの円安傾向などでアジアの方々がかんたんにたくさん来る状況というのは全く想像できませんでした。30年前は。

そういったことで、今、国を挙げてこの観光振興を推進しているわけでありまして、もう本当にこういった仕事で働けるのは夢のような気持ちでおります。ぜひ、私、どこまでお手伝いできるかわかりませんが、外から見た日本と、それから中から見た日本と、そういった観点からいろいろなお話をさせていただければと思っております。

私、東京の出身でございますので、外国では東京だけです、世界に発信できるブランドは。これは間違いありません。十数年外国におりましたけれども、東京しかブランドとしては通用していないというのが現在の外地から見た状況です。ぜひこの東京のブランドを世界に発信していきたいと思っておりますので、どうぞよろしく申し上げます。

【安島会長】 どうもありがとうございました。

本審議会は、これまで公開とされておりますが、今回につきましても同様に公開とすることによってよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声)

【安島会長】 ありがとうございます。異議がないようですので、本審議会は公開といたします。

次に、議事録署名人の指名をいたしたいと思っております。私のほかに、今回は井上委員にお願いしたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」の声)

【安島会長】 ありがとうございます。それでは、井上委員、よろしく願いいたします。

これより議事に入ります。

議事の1、「東京都観光産業振興プランについて」、事務局のほうからご説明をお願いいたします。

【猪口企画調整担当課長】 では、「東京都観光産業振興プラン」についてご説明をさせていただきます。

資料は、資料の3、「東京都観光産業振興プラン」の冊子、そして、資料の4、そちらの概要、資料の5、「東京都観光産業振興プランに対して寄せられた主な御意見」でございます。

まずは、プランにつきまして、資料4の概要によりご説明をさせていただきます。

本プランは、昨年7月に本審議会からいただいた答申を踏まえながら、東京都が今後5年間にわたり東京の観光振興を進めていくためのアクションプランとして取りまとめ、今回公表させていただいたものでございます。

一旦4月10日に中間のまとめとして取りまとめたものを公表いたしまして、都民の皆様からご意見を募集させていただきました。ご意見については後ほどご説明をさせていただきます。

では、まず、資料4の左側の上段、「第1章 東京の観光振興の意義（総論）」をご覧ください。

「これまでの取組」といたしまして、都が最初に「東京都観光産業振興プラン」を策定した平成13年度から23年度までの主な実績と主な施策をお示ししております。

その下の「観光を取り巻く状況」では、旅行者をめぐる昨今の状況や観光の視点から見た東京の特性についてお示しをしております。

続いて、次の「新プランの基本的な考え方」をご覧ください。

新プランの計画期間を5年間とし、東京ブランドの確立と東京ファンの獲得という2つの理念を掲げてございます。

施策展開の方向性でございますが、日本のゲートウェイとして外国人旅行者の誘致を強化していくこと、そして外国人旅行者を引きつける観光資源の開発・発信、この2つを柱としております。

そして、これらに基づき、洗練された都市としての東京の魅力をさらに磨き上げ、国内外の旅行者誘致を積極的に進めてまいります。

左側の下段、「目標」の部分をご覧ください。具体的な計画目標を記載してございます。東京を訪れる外国人旅行者は平成23年の410万人から29年には1,000万人に、そして国内旅行者は4.2億人から5.1億人にそれぞれ増やしてまいります。

続いて、資料の右側についてご説明をさせていただきます。

答申でいただきました5つの戦略に基づき、「観光産業振興に向けた施策展開」をまとめてございます。

戦略1は、「外国人旅行者誘致の新たな展開」でございます。きめ細やかなマーケティングによる

誘致戦略の構築を進めるとともに、特に今後の伸びが期待できるベトナム、インドネシアなど、新規市場の開拓。そして、個人旅行者の誘致を重視したプロモーションなどを進めてまいります。

戦略2、「MICE誘致の推進」でございます。M、I、C、E、それぞれのターゲットに応じた誘致戦略を構築し、積極的な誘致プロモーションなどに取り組んでまいります。また、これは既に今年度から実施しておりますが、コンベンション誘致・開催資金助成の拡充、あるいは、アフターコンベンションとして、都内観光ツアー、日本文化体験プログラムなどの支援プログラムを新たに用意するなど、誘致・開催に向けた支援を強化してまいります。

続きまして、戦略3は、「魅力を高める観光資源の開発」でございます。民間事業者等と連携した外国人旅行者を惹きつける観光資源の開発・発信のほか、多摩、島しょなど、地域の特性を活かした取組の支援を行ってまいります。また、答申でいただいた内容に加えまして、都市景観、水辺空間などの都市空間の魅力向上のための取組についても都として取り組んでまいります。

続きまして、戦略4は、「受入環境の充実」でございます。ICTを活用した情報提供の充実や、道路や交通機関等における案内サインなどの多言語化の推進に取り組んでいくほか、外国人旅行者を含めた旅行者が安心して東京を訪れることができるような環境の整備を行ってまいります。なお、既に3月に災害発生時外国人旅行者向け初動対応マニュアル、危機管理の部分でございますが、そちらを策定いたしました。今後、都内の宿泊所等への普及を図ってまいります。

戦略5は、「人材の育成・活用」でございます。地域のまちづくり等を担うリーダー、MICEの専門人材の育成・活用を図ってまいります。また、観光ボランティアについても、サポート体制の充実を図るとともに、その活動を国内外に向けて発信をしてまいります。

最後に、資料右下、「第3章 観光産業振興プランの実現に向けて」をご覧ください。

第2章の戦略を実現するため、各主体の役割と東京の観光を支えていく3つの考え方についてお示しをさせていただきます。

以上、簡単ではございますが、「東京都観光産業振興プラン」についてご説明を終わらせていただきます。

続きまして、資料の5、「中間のまとめに対して寄せられました主な御意見」をご覧ください。こちらについて簡単にご説明させていただきます。

寄せられたご意見は、延べ16件でございます。資料の真ん中にご意見の要旨、そして右側に東京都の考え方をお示ししてございます。

ご意見の多くがプランの各取組を進めていく中でお答えできるものと考えております。具体的な対応が困難なものについては、東京都の基本的な考え方を述べさせていただいております。

一つ一つのご意見については後ほどご覧いただければと思います。

以上で、簡単ではございますが、ご説明を終わらせていただきます。

**【安島会長】** ありがとうございます。

それでは、ただいまご説明がありました「東京都観光産業振興プラン」につきまして、皆様よりご意見がございましたらお願いしたいと思っております。ご質問、ご意見等ございましたらよろしく願います。いかがでしょうか。

**【今井（晴）委員】** 非常に今までいろいろ議論をされてきたことがしっかり盛り込まれていまして、プランとしては今から何か言うということは全くありません。

今回、新しく特にMICEがかなり取り上げられたのが特色だと思うんですが、結局このところは具体的なセールスプロモーションの力にかかるところが非常に大きいので、これを見ると、プランにはもう既にいろんなことが書かれていまして、何かそこにつけ加えようというようなほどのことはあまりないということで、ほかのところも大体そういう感じだと思うんですね。あとは、もう結局具体的なアクションの中でどれだけやり切れるかということにかかっているかと思っておりますので、これで当面まず頑張ってください、どこまでできるかということにかかるとは思いません。

ただ、1点だけちょっと、これは前から言っていて、今回も特に資源の中に入るんですけど、幕末から明治のころ、日本にいっぱい外国人旅行者が訪れていまして、トロイを発掘したあの人とかも、とにかく有名人が続々日本に。トーマス・クックもたしか日本に来ていると思ったんですが、そのときに、日本に来て彼らが何に感心していたかというもの、いろいろ読んでみていくと、おもしろいの

は、美術工芸品というのがものすごい精緻ですごいというので感心するんですが、もう1つは、実は東京の園芸文化とか庭園とかですね。あの園芸、要するにまち全体が庭園みたいな都市であるという、そこに感激している人が結構多くて、確かにそれに刺激を受けてイギリスで、英国で園芸がというか、一生懸命プラントハンターを世界に送って緑の資源を取り込んでいる最中でもありまして、非常に日本のインパクトがイギリスに及んで、今、世界の園芸というイギリス風、英国風の園芸というのが世界中にまた広まって、日本に支部までできて、日本人がそれを習っているということなんですが、当時は日本のほうが圧倒的に技術的にも、いろんな面で進んでいて、それを向こうは受けているんですね。

ですから、東京のまさしく文化だったんですが、あまりそういう情報発信を今やっていないので、非常にもったいないなと前から思っています、そういう意味でいくと、ここにももう既に用語としては歴史や文化をと、こういういろいろ出てくるんですけども、例えばそういうふうな、どこまでそれを読み込むかというところが非常に大事だと思うので、各アイテムでそういうところを少しさらに一歩、自治体のところでは深く読み込んでいただくと、もっと迫力が現実には出てくるかなと、こういうふうに思います。

以上です。

**【安島会長】** ありがとうございます。

きょうは、プランのご報告で、これからプランに基づいて実際に施策を実行していこうということでございますので、少しこの施策を実行する上でどういうことに気をつけなければいいか、あるいはいろんなご提言とかアドバイスとかあると思いますので、そのあたりを中心にしていただきたいと思います。

今の今井（晴）委員からのご意見も大変貴重なご意見だろうと思います。日本は園芸先進国だったんですね。今でも豊島区の染井とか、辛うじてちょっとそういう痕跡が残っている状況でございますけれど、もう一度そういうようなものも掘り起こしたり、あるいは園芸というのは環境なんかと非常に親和性が高いので、環境都市づくりというようなところと結びつけて、いろいろ都市の整備とまちづくりをしていくというのは1つの方向かなんていうふうに今ちょっと思った次第でございます。

建設的なご意見をいろいろ頂戴したいと思います。よろしくお願いします。

**【井上委員】** こちらの施策の展開の中にも「MICE誘致の推進」というのが大きな項目として書かれておまして、これを拝見すると中に海外の例なんか随分出ていると思うんですけども、まず、韓国にしても、シンガポールにしても、政府なり、都市も含めて、それをサポートするためのいわばここにあります開催資金助成の拡充ということがかなり大きくなっています。

韓国なんかの場合には、もうほとんど国が、本当にインセンティブなんかですと国が丸抱えに近いような状況でお金を出してサポートをする、呼んでくるということを中心を置いてやっているの、ぜひその点も具体的に……。私が知る範囲では、東京都の金額は割と小さいと思いますので、ブランドバリューがある割にはちょっと小さいのではないかと。だから、その辺の資金をぜひもう少し大きく考えていただきたいというのが1つと、それから、ユニークベニューなんですけれども、今、今井（晴）さんがおっしゃったように、東京の中にいろいろな文化的にもユニークなもの、たくさんあると思うんですが、それがMICEの一番のポイントであるユニークベニューというところになかなかうまく生かされないということが1つ問題点としてあるのではないかと思います。

例えばつい最近、京都の南座をMICEのユニークベニューとして使っていただくというのをニュースとして配信していましたが、そういった形で、ああいうかなり文化財的な意味のあるところでも、MICEの意味のあるものでしたらどんどんオープンにさせていただいて、そういう日本の文化に触れていただくということも大変大切な要素だと思いますので、ユニークベニューに関しては、どんどん情報発信も含めてやっていただくことと、あと、もしかすると東京の場合、じゃ、どこかのお寺さんでパーティーをやろうというふうになった場合に、そこにケータリングがどうなるのか、保健所の許可がどういうぐあいが必要だとかという、そういうある意味で規制の厳しさというところもあるように思いますので、規制緩和も含めてユニークベニューの開発をもっともっと力を入れてやっていただけたらというふうに思います。

以上です。

【安島会長】 ありがとうございます。

お寺のほかに、例えば庭園とか、美術館とか、いろいろありそうで、十分検討の余地があるのかなというふうに私も思っております。

補助金とかについても、韓国の場合は国ですかね、ソウル市が？

【井上委員】 両方ですね。韓国の観光公社が持っているらっしゃる分と、都市、特にソウル市とか、それから国際空港を持っているインチョン市、ソウルの隣ですけども、あの辺もかなり大きな金額を持ってM I C Eの誘致を図っていらっしゃいますね。

【安島会長】 ありがとうございます。それも検討していただきたいと思います。

ほかにかがででしょうか。

【川島委員】 大島の川島です。先日送られた中間のまとめのほうを読んだというか、もうほとんど完成品ですので、意見というよりも感想と、それから要望を発言したいと思います。

読んだ一番の感想は、外国人誘致について非常にスペースをとって書かれているなというのが率直なことで、これは当然のことだというふうに思っています。ただ、この外国人誘致と島との関連という記述はちょっと少ないなという感じはあるんですが、でも、これも致し方ないというふうに島の代表としては思っています。

読んでもらえばわかるように、島しょ地域は何しろ長期的な低迷というのがもうまず現実の問題ですので、そうした中でこの振興プランを力にして今後どう展開するかと、東京の島というものをですね。ここがきっと問われているんだなというのがまず感想です。

今後のためにも、3点ちょっと最近の例を紹介しながら、要望も含めて——先ほど会長さんからありましたように、今後の具体的な足を踏み出したときの参考にとということで、3点例を挙げたいと思います。

1つは、これは東京都の港湾局が主催していますのでぜひ、観光の方も出ていましたが、もう少し位置づけを明確にしたほうがいいんじゃないかという意味で、東京都の港湾局がここ2年続けてクルーズセミナーを開いているんですね。ここに私たち島も参加しています。

まだ島へ来る大型船、クルーズというのは国内旅行者が大半ですが、今後の展開によっては外国人のほうもあり得ると。実際には小笠原、それから八丈島、神津島ですかね。小笠原は上り調子です。断るぐらい、どんどん今クルーズ船が沖合に着いて、自然遺産の小笠原にというところですよ。

ただ、私が大島の町長として、八丈、神津もやっているということで、同じような条件ですので、何で大島でできないんだろうということで、きっと東京に近過ぎるのか、あるいは需要がないのかというふうに思っていたんですね。

先日のクルーズセミナーで業者の話聞く機会がありまして、認識を改めました。大島の場合は、2つ港があるんですが、港の地形、海底の関係でその沖合に停められないということになっていると。需要はどうかというと、いや、十分、少なくとも国内旅行社で今やっているクルーズ船を沖合にやって伊豆大島に上陸させたいというのがお客さんの要望でもあるし、業者としても需要はあるんだということなんですね。

これを結局島側がそのまま、そういうことがきっと相当昔にあったらうにそのまましてきたというのが現実なのかと思っています。この点で、東京都等とも港湾局を含めて相談を、やっぱり島側が主体的になって、そういう希望があるわけですから、東京の近くにあんな火山島があつてということで、この後、知らせますが、1つのポイントになると思っていますので、ぜひ停泊できないならできる——停泊はきつい、沖合になるんですけどね、いずれにしても。ならば何が必要なのかということが1点です。

それから、2点目がいわゆるF I T (フィット) というんですかね、F I T (エフ・アイ・ティ)、個人旅行者の問題ですが、先日、島の方の話がありまして、「町長」ということで「何だ？」と言ったら、東京から大島への船の中で、フランス人らしいんですが、1人の外国人の方と会って、宿の紹介だとか、いろいろしたと。その方の感想は、もうサプライズだと、こんな東京のそばに何という、三原山とか裏砂漠を見て、もう驚きだったようです。あと、島の人情といいますかね。要するに都会



との比較で彼は語ったんだと思うんですが、その行程が、東京でも遊んできた、大島に来たと。次は関西に行くんだということなんですね。つまり、この間も議論にありましたけど、そういう個人外国人旅行者が大体東京で、次は関西。大体1週間ぐらい過ごして帰ると。ところが、そこに島が入りつつある。

考えてみたら、高速ジェット船が就航して、大島なんかは東京から1時間45分、熱海なら45分ですから、これはもう当然その1週間、10日とか、彼らの旅行行程の中に東京の島というのが入る、選択肢になってきた可能性が。夜の船も彼らは全然いとわないですから、全然大丈夫ですのでということなんです。

ただ、もう1つの大きな感想が、交通費が高い。自分たちの考えている島へ渡るということからするとあまりにも高過ぎる。「何とかならないか」と言われて困ったらしいんですが。

ということで、この点も……。もう1つ、あと宿のほうも紹介したんですが、島は、正直言うと、こうした外国人旅行者に対応できる宿はまだまだ少ない。カード対応もできないというのが現状ですので、ごくごく一部以外は。

ですから、その辺について、島側の努力も必要ですが、どういうふうにしたらいいのかという点でも、我々としては安易にはできませんが、町を含めて、そういうものに対応する公的支援としてどこまでできるかということについて、ぜひ今後やっぱり踏み込んでいかないと、そうした外国人が増えている中で対応できないという状況になると思っています。

最後が3点目で、うちはハワイ島と実は世界初の姉妹島というのが売りで、去年でもう50年になるんですけどね、盟約して。ということで、手紙のやりとりをずっとして、なかなか行くのは大変で、この9月にハワイ州のハワイ島の市長というのか、郡長というんですかね、さんから、ぜひとも大島に来たいという手紙が来て、今やりとりをしているところです。

正直言うと、50年の中で行ったり来たりはしているんです。ほとんどハワイ島の代表はこの間は来ていません。うちは七、八年前に100人以上の訪問団を組んで行きましたが、正直言うと、大島もハワイ島も共通して経済が厳しいですから、なかなか大変なんですね、それ自体は。でも、息を長く続けたいと思っているんですが。

この点では、例えばハワイ島とのといったときに、これから本格的にやりますが、個人的つながりでやってきたんですね、これまで。これだとしても限界がありまして、例えば大使館だとか、あるいはハワイ州の観光局ですね。もう今はその手立ては打っていますが、もちろん我々も自治体として努力するけれども、あるいは、親善交流協会というのがありますから、そういうものは重視してやるけども、そこに東京都さんが入ってもらって、きちんと盟約しているわけですので、もっとグローバルというか、公的にそのものを確認して、我々のほうも、できれば大使館なり、そういう向こうの観光局と、というレベルまで高めていかないと、結局どこかで断ち切れてしまうのかなという危惧を持っています。

3点、例ですけれども、これを読みながら、そういう具体的なところでこのプランをもとに具体化を図っていければ、いろんなこの趣旨に沿うものが島でもできていくんじゃないか、もっともっと外国人が島に——今でも来ているんですけど、結構。もっともっといらっしゃる可能性が十分あるというふうに思っています。ぜひとも島の関係者にもこのプラン自体を、一部じゃなくて、できる限り要望しますが、早くしていただいて、議論をどんどんしていくというふうに努力をしていきたいと思えます。

以上です。

**【安島会長】** どうもありがとうございました。

島の観光については可能性がいろいろありそうで、課題のほうもしっかり把握をなさっておられると思います。

お聞きする中では、いろいろすぐに取り組めるようなものもございますし、少し今後検討すべきこともあるように思います。特に海外、これから第1の戦略としては外国人観光旅行者の誘致ということでございますので、島へのそういうような展開というのも考えていく必要があるのかなというふうに思います。

都のお力を借りるということも大切でございますけれども、どういうふうに島の魅力をアピールするのかということで、いろんな案内所とかの役割も大きいと思いますし、伊豆七島の玄関口である竹

芝——武井区長さんもおられますが、その竹芝地区と市町村の境界を越えたいろんな連携というのも有効なのかなというふうに思っております。

何かございますか。

【武井委員】 竹芝の名前を出していただきましたので、今、川島町長さんからお話がありましたけれども、竹芝というのは、島しょの玄関口で、どちらにしても玄関口と言えるかと思えますけれども、海の魅力というのは東京にとって大変大きな財産だと思います。

竹芝の開発計画も進んでおりますけれども、1つ、竹芝が、港に、栈橋のほうに行きますと海のイメージがすぐもう感じられるんですけども、どうしても……。JRで行きますと浜松町、地下鉄ですと大門、モノレールも浜松町ですけども。そこから竹芝までの間が、その雰囲気は今ないんですね。これから海に向かうぞというワクワク感がないといいたいまいしょうか。そういうものを、陸から海につながるというところをわかるような形で演出できると、とても魅力的な空間になるというふうに思っております、東京都が主体に進めております今の開発の中でそうした要望もしておりますけども。

やっぱり自治体間の連携というのはとても大きな力になるんだなということが、これは一昨年の東日本大震災、これは災害対策で、あのときはまた分野が違うのかもしれないけれども、あの体験を通じまして、自治体間の常日ごろの連携というものが広い分野にわたってお互い有益なものだということに改めてそれぞれ全国各自治体とも認識をした、深めた契機になったと思います。

私のところも、防災に限らず、いろいろな形でやっぱり、東京都内はもちろん、全国の各自治体ともそうした交流関係を深めていくことが将来的なお互いの発展のために大変に役立つだろうということで、積極的に今取り組んでおるんですが、都内の中でも島しょ部と区部や多摩、それぞれを連携して結びつけるようなことも、それぞれの自治体が自分たちの強みを生かしながら、それをまたお互いに紹介し合っ、あるいはその組み合わせでまたさらに大きな広がりを持つような効果を生み出したということができるのではないかというふうに思っています。

それで、最近のことですが、スカイツリーが非常に注目を浴びていまして、タワーといいますが、東京タワーが50年以上前にできまして、いわゆるタワー、自立鉄塔というのは東京タワーが東京の中心で象徴的なものだったんですが、今はスカイツリーに非常に人気が集まっています。両方のツリーとタワーの地元であります墨田区さんの商店街連合会と港区の商店街連合会、それが2つ協力しまして、流行のまち歩きのイベントを企画して、携帯の端末を使ったゲームも取り入れてやりましたところ、今までとは違う若い方ですとか、要するに違う客層の方が大変来てくれたという話がありまして、これはお互いにとってとてもいいイベントだったということですね。

私もお話を聞きまして、今のIT技術なども使って、そしてまた自治体間のコラボも組み合わせ、まだいろいろな可能性があるというふうに思っております。ですから、ぜひこのプランの考え方、基本的に共有して、主体として取り組んでいきたいというふうに思っています。

【安島会長】 どうもありがとうございました。

そういう市区町村間の境界を越えたいろいろな展開について、どうぞよろしく願いいたします。

【座間副会長】 ちょっと一言。

今、おもしろいお話だなと思って聞いていたんですけども、やっぱり日本は海の国なんだなというのをすごい今日初めて認識したんですけども、東京都の海が、伊豆七島、大島さんも含めてあって、私も八丈とか大島とか1回ずつぐらいは行ったことがあるんですけども、フランスとか欧米のバカンスのやり方と日本人のバカンスのパターンが長さが違うというのはもう周知の事実なんですけども、徐々にやっぱり今の若い年代から我々の年代まで、少しずつ長くなってきている。1つ、長期滞在できるパターンをつくられたらいいのかなと。なかなか受け入れ側も、1週間とか泊まられるとうまく回るのかとか、ちょっとそのテクニクなことはわからないんですけども、それがやっぱりできていないので、なかなか発展しないのかなと。海がある割には、タイとか、そういうところに欧米の方たちは長く滞在しに行くと、コストが安いということもあるんですけども、それがやっぱり日本全体のネックになっていて、東京も考えたらそうやって海があるんだなと。だから、東京でちょっとした滞在ができる、外国人は喜んで行くのかなという気がします。

それから、インフラの整備みたいなところで言うと、私、たまたま実は去年の2月までアムステル

ダムにいて、戻ってきて1年しかたっていないんですが、高山に仕事で行きまして、高山はうまくいっていると。すみません、外国人の誘致の話なんです。まちを歩いているとすごくカンファタブルというか、いい感じがするんですね、日本人でも。というのは、日本人でも割と楽しい商店街があって、その商店街も、ちょっとした言葉を紙に書いて張ってあるだけなんですけど、ウエルカムされているようなイメージがあると。だから、そういうまちづくりをやってくださいというのもあれですけども、そういうムードがその受け入れ先にできてくると、それは口コミで広がってくるというパターンはあると思います。

それから、先ほど姉妹都市交流の話は、私もパリに6年いたときに、パリと東京というのは姉妹都市ですよ、たしか。東京都のOB会みたいな方の、共済組合みたいな団体を受け入れるような仕事をしまして、200名ぐらいが来ていただいて、花笠音頭だとか、柔道の交流だとか、そういうことをやっていただいたんですけども、パリから行くのは10人なんです、大体行くとしても。大体これぐらいの外国との温度差があるのかなというのは、先ほどの姉妹島の話聞いても感じたんですね。

ただ、いろんなアイデアがあると思うんですけども、例えば子供を交流させるだとか——もうやっていっちゃと思うんですけども、大人の交流だとか、それから物産の展示会の交流だとか、いろんなことをちょこちょこやって、ハワイ島とずっとつながっていくというパターンなんかアイデアとしてどうかなんていうふうに思ったんですけども、すみません、そんなところです。

**【安島会長】** いろいろ国際的な交流等について詳しい座間副会長がいらしたので、大変心強いです。いろいろなアイデアが出ていますので、ぜひいろいろまたこれからもご指導いただきたいというふうに思っています。

まちを歩いてもてなされている、ホスピタリティーを感じるまちを、かつ、そういうことを感じるようなまちをどうつくっていくのか、大きな課題かなというふうに思っております。

**【河村委員】** 奥多摩町の河村と申します。今、海の話が出ましたので、山の話も含めて、ご認識をいただきたいなと思っております。

この中でも、もちろん国際的なお客様がたくさん来るということでございますから、そういう点では、まだまだやるのがたくさんあるんですけども、今、国内的には、この資料、本文の中にも書いてありますけれども、山ガールが3年ほど前から非常に多くなってきています。私どもの町は、青梅線の終点の奥多摩駅なんですけれども、3年ほど前からJRの乗降客が、山に来る人たちが増えております。

そういう点で、この山の問題というのは、西多摩地域4市3町1村で、ほとんどその中の——私どもの町と隣の檜原村、これは山を中心にして生きているという状況でございます、今、私どもと檜原さんでは、森林セラピーという事業を推進し、さらにそれを伸ばしていこうということで、檜原さんでは、ロードを1本認定を受けています。私どもは、まち全体を森林セラピー基地として1つとし、また森林セラピーロードを5本持っております、1本は今後の新しい森林セラピーロードとしたらこういうロードがいいんだよということで、千葉大学の園芸学部の先生方にご指導いただきながら、3年かけてつくりました。障害を持っている方もそのロードで森林浴ができるということも含めてやっております。

そういう点では、外国人誘致をするという意味では、まだまだ基盤整備、言葉の問題、標識の問題、あるいはその受け入れの問題等を含めて、この中に、本文に書いてありますので、今後努力をしながら、東京都の財政支援を受けながら、整備をしていきたいなというふうに思っております。

現実に今の問題でございますけれども、産業労働局の観光部が観光を担っているんですけども、私どもとして今喫緊の課題としては、その森林セラピーのロードが、奥多摩湖がございます。奥多摩湖のふれあいのみちは水道局さんが3年かけて非常によく整備をしていただきました。また、鳩ノ巣という溪谷があるんですけども、鳩ノ巣から奥多摩にかけて非常に今お客さんが来ているんですけども、そこに東京都の交通局の水をためる白丸ダムという貯水池があります。その管理道路を利用させていただいているんですが、3・11によりまして道路崩壊が起り、なかなかその復旧が進んでおりません。

国道を歩くということで、その間、歩いているんですけども、今、要望しながら、早く復旧して

ほしいということなのですが、そういう意味で、今起きていることと——なかなか観光だけではなくて、各局との連携をとりながら、今まちで起きていることも関心を持っていただきながら、外部的な支援も含めてやってほしいなというふうに思うところでございます。

いずれにしても、今後、私たちの持っている地域のポテンシャル、郷土芸能もありますから、そういうものも含めて、いかにして外国のお客さんを受け入れる体制がつかれるかという努力をしながら、観光の振興を図っていききたいというふうに思っております。

**【安島会長】** どうもありがとうございます。観光はいろんな部局と関係が深いので、連携をとりながら進めていただきたいと思います。

お願いしたいんですが、今だんだんちょっと時間がなくなってきました、一応とりあえず予定の時間を過ぎてしまいました。ちょっと短か目にご発言をお願いしたいと思います。

**【中澤委員】** バリアフリーカンパニーの中澤です。

これは今までの話の中でも申し上げたとおり、東京都の受け入れ体制ということで、バリアフリーとかユニバーサルデザインについては、世界の都市の中でも結構相当いいと思います。ただ、そういう状態にあるということが——特にこの10年で大きく変わっているんですけども、大きく変化していることが発信されていない。やっぱりそういう情報というのは、なければまず来ようという気にならないですね。そののところにちょっと力を入れていただいたらいいかなと、そんなふうに思っています。

**【安島会長】** ありがとうございます。そういう情報をやはりいろんなところに発信していく上で幾つか私もちょっと感じたことがございますので、いろんなところで活用していただけるようなことを考えていきたいと思っております。どうもありがとうございます。

**【菊地委員】** 私のほうからは、皆さんとちょっと違う観点で、戦略5というところなんですけども、実はこの計画というのもよくできているんだけど、この計画に実を实らせるのであれば、この戦略5にいかにか産労局さんのほうが真剣に取り組むかということが重要だと思っているんですね。

実はMICE1つとっても、「MICEって何？」という人が今多いと思うんですよ。だから、MICEに関するこういう育成をしていくということで、多分、昨年、今年度と産労局さんと首都大学東京が共同でMICEの講座をやっていると思いますけども、そういうふうなMICEの講座をさらに拡大していくということも大事ですし、その上の地域のまちづくりであるとか、観光に対する理解、あるいは東京都のプランニングに対する理解というものをいかに一般都民に広めていくかということ、そういう講習会であるとか講座であるとか、そういうものをやはりどんどん広めていくということが大事なというふうに私は思っていて、ですから、この5を今年、来年に向けて、いろんな教育、啓蒙の機会を捉えて、こういう東京都の覚悟というものをいかに都民に知らせていくのか、あるいはそのノウハウを知らせていくのか。

そして、僕は、基本的には都民が東京ブランドをつくっていくんだと。私たちがつくるんじゃなくて、東京都民が東京スタイルという、そういうものを、あ、こういうものも東京スタイル、ブランドとしてあるよ、こういうものがあるよというふうに言ってもらうのが一番いい。そういう下からのボトムアップというものを狙うためにも、この人材育成・活用というのが大事。このところをいかに強調するかというのが大事になってくると思います。

以上です。

**【安島会長】** ありがとうございます。MICEなんていう言葉も普通に使っていますが、一般の人はほとんど誰も知らないような気がしますね。おっしゃるとおりかなと思います。それと、人材育成も本当に重要な課題だということでございます。大変な貴重なご意見、ありがとうございます。

**【今井（明）委員】** 時間がないので、一番簡単なもので。

やはり旅行者からいつも来るのは、両替の問題でいつも困っているということで、浅草の文化観光センターのほうに27カ国の両替ができると。それが1カ所、2カ所だと非常に……。パリなんかへ

行くと、必ずどこでも両替があるんですね。日本の銀行は、土日は休みで、両替もしないということで、やはり外国人を受け入れるのであれば、必ず両替はどこでも、まちでも、わかるようなところで両替をさせて、お金を落としてもらわなければ観光の意味もないので、ぜひ地図の中に両替の場所をちゃんと明記して、繁華街なんか特に入り口とか出口とかにそういうものをつくってもらって、日曜日、祭日もなく、外国人の人はすぐ日本円に替えて飲みに行ってもらおうとかという形をぜひ何かプランの中に入れてもらいたいと思います。

**【安島会長】** ありがとうございます。観光案内所等の整備等ですね。今、浅草の例が出ましたけれど、各国語で対応できるということと両替ですね。必要なことをやって、台東区の文化観光センターはカテゴリ3になりましたね。7つしかないものの1つになりましたので、ちょっとそれを目指して案内所の整備とかを進めていただきたいと思います。

よろしいでしょうか。ほかに何かありますでしょうか。

それでは、ちょっと時間が最後なくなってしまうので、まだまだご発言をいただきたいところでございますが、きょうはこの辺で終了したいと思います。いろいろなご意見を頂戴いたしまして、ありがとうございました。

平成22年の10月に都知事から「東京の活力向上を図る観光振興の戦略的な取組」についての諮問を受けまして、いろいろな大震災等ございまして少し延びてしまいましたが、審議会、専門調査委員会において審議、検討を重ねまして、昨年7月に答申として提言をいたしました。

今般、その答申を踏まえて作成された「東京都観光産業振興プラン」に基づいて、世界の観光ブランド都市・東京を目指して展開される都の観光施策に期待したいと思います。

このところ経済も大変上向きでございまして、昨年、スカイツリーとか東京駅ができたり、いろいろなホテル、あるいは大型の商業施設等ができて、東京の都市観光、大変活性化をしてくれています。この調子で我々もそれぞれの立場で観光産業振興プランの実現に協力して、デフレの脱却、経済の再生に観光の立場から協力をしていきたいというふうに思っております。

きょうはどうもありがとうございました。

それでは、事務局にお返しをいたします。

**【十河観光部長】** ありがとうございました。いろいろなご議論をいただきました。一つ一つこちらも考えをお返ししたいところなんです、お時間もございません。これからまた改めまして施策に生かしていき、また皆様方とさらにご議論をしていきたいというふうに思っております。

最後になりましたが、局長の中西よりご挨拶をさせていただきます。

**【中西産業労働局長】** 本日は貴重なご意見を多数いただきました。ありがとうございました。

プランにもございますが、今後の施策の展開に当たりましては、東京都のみならず、区市町村、民間事業者、関係団体、都民の皆様など、多くの方のご協力のもとで、東京の総力を結集して取り組んでいかなければならないと考えております。

委員の皆様方におかれましても、東京の観光に向けた取組が進み、そして東京が魅力ある都市であり続けるため、引き続きご指導、お力添えを賜りますよう心からお願いを申し上げまして、簡単ではございますが、私からの挨拶とさせていただきます。

プランの策定並びに公表に至るまで東京の観光振興について幅広くご議論いただきましたこと、改めて御礼申し上げます。ありがとうございました。

**【十河観光部長】** それでは、以上をもちまして、本日の東京都観光事業審議会を終了させていただきます。

午前11時01分閉会